

令和5年度 瑞浪市総合教育会議 会議録

(要点筆記)

日時 令和6年1月25日(木) 13時30分開会  
場所 市役所 4階全員協議会室

出席者 (構成員)

市長	水野光二
教育長	伊藤慶和
教育長職務代理者	鈴木圭子
教育委員	可児恵太
教育委員	羽柴誠
教育委員	柴田洋子

(事務局)

事務局長	林 恵 治
事務局次長	滝川直樹
教育総務課長	兼松美昭
社会教育課長	奥谷ひとみ
スポーツ文化課長	水野義康
企画政策課長	加藤昇
教育総務課総務係長	山崎美和
教育総務課総務係	鈴木佑佳

説明者 学校教育課課長補佐 水野 浩

傍聴者 なし

報道関係者 なし

## 次 第

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議・報告事項
  - ① 第7次瑞浪市総合計画について
  - ② 市の組織再編について
  - ③ 教育大綱及び第2期瑞浪市教育振興基本計画について
  - ④ 瑞浪市の不登校の現状について
  - ⑤ 瑞浪市のいじめの現状について
- 4 その他

## 1 市長あいさつ

各教育委員の皆さんにおかれましては、御出席を賜りまして誠にありがとうございました。

元旦に能登半島地震という大変な災害が起きてしまい驚きましたが、まずは、消防本部が7時過ぎに1台編成し、岐阜県隊として合流して現地に向かい、2日の朝2時頃には金沢まで行きましたが、道路が大変な状況で金沢から被災地まで行けませんでした。何とか、2日の日が明け始めてから道路をかき分けて現地に入ったそうです。救急車が1番最初に呼ばれました。病院が被災しており、能登半島には幾つかの小さな病院がたくさんあったそうで、総合病院みたいな大きな病院がなかったようですが、そういう病院にまず行って、入院してみえる重篤の患者さんを金沢まで運ぶことが最初の仕事だったそうです。1つの病院に20台30台の救急車が集まって、患者さんを1人2人乗せて、普段なら1時間から1時間半で移動できる距離が、3時間4時間かかったそうです。そういう過酷な中作業をやらせていただいて、その後被災された方を病院へ運んだそうです。1日に1人2人を運ぶのが精一杯だったそうですが、そういう中で作業してきて、うちの1次隊、2次隊、3次隊は、まずは病院に入院している方を運ぶことが1番大きな使命だったそうです。

200人を超える多くの方がお亡くなりになりましたので、心からご冥福をお祈り申し上げますし、被災された皆さんには、お見舞いを申し上げます。

先ほど建設業協会のほうから高額のご寄附を頂きまして、19日現在は69万円ほどでしたが、建設業協会から100万円寄附を頂きましたので、今日現在で1,705,925円です。現地へ日赤を通して届けさせていただくことになるかと思いませんし、今日この会議が終わりましたら、LPガス協会もぜひ寄附をしたいという申出がありましたので、この金額は増えるのではないかと思います。それぞれ、連合自治会など色々な方々も御心配してみえますし、市の職員も何とか支援をしていきたいなと思います。

消防職員がまず3名1組になりまして、1次隊、2次隊、3次隊として行きました。その後、今日帰ってきますが、避難所の運営スタッフとして2名、倒壊した家の調査等の作業に1名の3名が現地へ市の職員が行っております。

様々な要請が来ておりまして、我々も準備していますが、受入れ態勢ができてないから延期してくださいということもあり、我々も歯がゆい思いをしています。支援物資についても、皆さんから支援物資を送ってほしいという、要望要請はありますが、頂いても今現地へ届けられない状態ですので、体制ができたならまた受け取らせていただきますということで、支援物資を準備し、そのリストをつくり、現地に届けられるようになったときはお届けできるよう、準備させていただいております。瑞浪市としても色々なことを支援に入っていることをご理解頂ければありがたいなと思います。

総合教育会議ですが、瑞浪市も今大きく4月に向かって、組織も変わろうとしておりますし、総合計画も6次から7次へと大きく変わろうとしている節目でありますので、たくさんのテーマがありますので、よろしく願います。特に、教育委員会に関わる組織改革もございますので、そういうところもご説明させていただき

たいなと思います。

1つ大きな動きとしましては、議会改革の一環で、前々から連合自治会や市民の皆さんから議員定数について様々なご意見がありました。特に議員が多すぎるのではないかと、もう少し少数精鋭にして、しっかり議員さんに活動してもらうような議会にすべきではないかと、というご意見がたくさんありました。ただ、議員を減らしたら、それだけ市民の皆さんから議会と行政に意見が届かなくなるので、ただ減らせばいいという問題ではないのではないかと、現状維持か増やしてもいいのではないかとというご意見も少数ですがありました。様々なご意見を議会で取りまとめをされ、最終的に議会から答申という形で頂きましたのは、現在の16名を14名にし、2名議員さんを減にする決定を議会がされまして、12月議会で、自ら議案上程されて、可決をされましたので、ほぼ3年後に行われます市議会議員選挙から14名の定員で選挙が行われることが決定しました。これはやはり市民の皆さんにも、色々な意味で影響があると思いますが、議員さんたちが自ら考えられて決断されましたので、ご報告させていただきます。

その他のことは後ほどテーマになっておりますので、その都度触れさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 2 教育長あいさつ

本日はありがとうございます。

今市長さんがおっしゃられたように、今年のスタートは本当に大変なスタートだったということで、先日の校長会と教頭会で、今年はやはり危機管理の年だと覚悟して、学校経営をしていくということ、先生も子どもも健康に留意して、夢のある学校経営を進めていこうという話をさせていただいたところでございます。

この会は昨年も参加させてもらって、市長さんと意見交流ができる本当に貴重な会だということを思っております。

今日も、様々な視点から意見交換ができて、よりよい学校経営、教育を進めていける土台がつけるといいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 3 協議・報告事項

### ○事務局長

これより本日の協議・報告事項に移ります。

### ○市長

これより議長を務める。

### ①第7次瑞浪市総合計画について…資料No.1・2

### ○市長

協議・報告事項①について、資料により説明

②市の組織再編について…資料No. 3

○市長

協議・報告事項②について、資料により説明

○教育長

今、市長さんがご説明されたように、教育委員会が、学校教育と家庭教育を中心に進められるというのが、非常に経営の仕方としてはいいなと思いますし、それぞれの教育委員さん方も直接学校教育そのものに関わって、色々なご提案をしていただけたらと思いますので、ぜひ充実した教育委員会を進めていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

○市長

ただ、今は事業説明しましたように、駅北には図書館、文化センター機能を移すので、ご父兄の皆さんや、生徒、児童から色々な思いや意見もあるかと思っていますので、そういうのも今聴かせていただきながら計画を進めておりますが、具体的に設計に入ってくるのはこれからなので、ぜひ、教育委員という立場で、意見をいただければと思います。

③教育大綱及び第2期瑞浪市教育振興基本計画について…資料No. 4・5

○教育長

協議・報告事項③について、資料により説明

○市長

教育大綱について、昨年度の本会議において、次期教育振興基本計画の基本構想を教育大綱とすることについて御承認を頂いております。その前提で策定を進めてきたものです。ただいま説明頂きました第2期瑞浪市教育振興基本計画の基本構想をもって大綱としてよろしいか、お諮りをしたいと思いますがいかがでしょうか。

○各委員 承認

④瑞浪市の不登校の現状について…資料No. 6

○水野学校教育課課長補佐

報告事項④について、資料により説明

○可児委員

不登校支援のことにに関して、最近お知らせを受けましたので情報提供させていただきます。瑞浪のこぶし教室に相当するものが、多治見のさわらび学級というところがあるそうですが、こちらで一昨日引きこもり、不登校の中学生を対象にした地域企業における職場体験の取組があったそうです。

今回の資料6の最後にもありました多角的な視点からの支援の方向性、校内校外の

教育センターと力を合わせて、学校には行きたいとか、学校に行けないけれど外には出たいとか、色々なニーズを地域の企業さんとも協力して、不登校の対策、あるいはそこから大人になってひきこもりにならないように、また、地域の企業さんにとっても、地元の重要な若者を将来、地元で働けるようなきっかけづくりできたというすごく良い取組で、盛況のうちに終わったそうです。

#### ○市長

今、それがいいかどうか分かりませんが、必ずしも学校に行かなければというような時代ではなくなってきて、行きたくなければそれを認めるといいますか、そのような方向に教育委員会としてもなってきていますか。

#### ○教育長

全国的にそういう流れが来ていますが、やはり将来、社会生活を営んでいく上で、集団の中で生活できる力も大事なので、瑞浪市の教育委員会としては、基本的にはやはり学校に行って、みんなで学ぶ、活動するということを大事にしていきたいと考えています。そこに行けない子が出てくるので、その子たちが何とか力をつけるために、校外支援センター、こぶしや、今の多治見のような例など色々な手段を使って、社会生活ができるような力をつけていきたいと思っています。

#### ○市長

1番大切なのは家庭だと思います。そこへ行く前に対応できている家庭もありますが、できない場合は、やはり学校のフォローがとても必要だと思います。例えば、休んだ時に学校からの連絡を頼りにしているんですね。やはり、学校がうちの子どもと私のことも心配してくれているという、連帯感、つながり感がとても親には大事です。そうすると親が勇気づけられて、子どもにうまく接することができる。それがないと、親も何をやっていいのかわからなくなる。親が何も言ってくれないから、子どももそうになってしまう。最初の1番のきっかけで、このときに、僕は、学校からのタイムリーな接触、電話でも手紙でもいいし、訪ねてもらえるのが1番いいのかもしれないですね。こぶし教室にも行けなくなってしまうと、もう完全に不登校になってしまうから、そこで最初の対応が本当に大事ですよ。気にしているというメッセージを親に伝えるということですよ。

それともう1つは、居場所ですよ。学校に行けなかったら、こぶし、こぶしに行けなかったら他のどこかへ。そういうところがあればいいですね。

#### ○教育長

今、中学校は先ほど説明があった校内支援センターに常駐する先生というか支援員さんを、市費で置いてもらっています。だから、学校まで行ける子が、市費で雇っている会計年度の先生に、いろいろ話をしたり、相談したり、勉強したりできるような環境ができています。やはり市長さんが言われるように、小学校のときからが大事なので、小学校では、今学校の先生が空き時間を使ってつないで、校内支援センターを

運営しています。だから、そこも何とか常駐で相談ができる支援員さんを配置できればと思います。7校全てというわけにはいかないと思いますが、2校3校ある程度人数がいる小学校には、そういう支援員さんを常駐できれば、学校までは行ける、さらに学校まで来れば教室まで行ける、そういう手段も考えられるので、ぜひ来年度やっていけるといいなと思います。

#### ○羽柴委員

今の初動対応も含めて、関わった先生が、原因や性格など色々なものを分析しながら1番手を打つことが大事だと思いますが、それを全ての先生ができるかということ、なかなかそれだけの力を持った人は少ないと思います。そういう方を育てていくシステム、その人たちが、うちの学校の1人か2人を見ていて全てではないので、もっとほかのタイプが来るかもしれないので、そうすると、たくさんの事例を持った先生のところ、実際に見て学ぶことはとても大事なので、1日もしくは半日行って、この子にはこういう対応をすると、生き生きしてきたなとか、何か自信持てたぞということが分かると思います。研修システムみたいなものも同時に考えていかないと、また、いつも来ているわけではない場合があるので、少し時間的に余裕あるときに動けるようなシステムができるいいなと思います。

人間は、心の問題も含めて、何か物を食べながら人と関わると何かいいことが多いです。こぶしでは給食が食べられますか。

#### ○教育長

お弁当です。

#### ○羽柴委員

給食がもしあったら大分違うなと思います。給食にはとても良い効果があるので、準備していても来なかったということがあるかもしれませんが、同じ給食を食べるということでも大分違うかなと思います。

陶の子がどれぐらいの割合で、こぶしに行けているのか気になりました。遠いから家にいるように言われている子がいるのではないかと心配になりました。

#### ○水野補佐

陶に限らず距離によって行けない子はいます。

#### ○鈴木委員

昨年の県の教育委員の研修の際に、他の市町の委員の方々とお話をしたときに、まさにこの教育支援センターの話が出て、その方の町では、学校の中に校内支援センターがあるだけで、学校に行きたくない子はどうやったらそこで相談できるのだろうと言われて、要するに校外をつくってほしいというお話をされました。それを今思い出して、瑞浪は、元々こぶし教室はありますし、今は中学校ですが、校内支援センターが設けられて動き始めているというお話を聞いて、やはり、親さんも子どもにも、ど

ここに自分が行きやすいかを選択できるというのはとても大きな力だと思います。

やはり、幼少期は本当に大事なので、教育長がおっしゃったように、小学校にも何とか、今は先生の負担がさらに大きくなっている状況なので、予算を上手につけていただいて、子どもだけではなく子どもを介して親に伝わるよう、基本は家庭なので、家庭の中で、親がどう変わっている、子供のために自分がどうなっていくかなくちゃいけないかということもお話しできて伝える場所があるといいなと思ったので、やはりそれは小学校、早い段階での対応が必要だと思います。

○市長

羽柴先生がおっしゃったように、先生のレベル、経験について、ベテランの先生がみえて、新任の先生もみえるので、当然違いますよね。そこはやはり、研修で経験の浅い先生のレベルを上げるというのは大事かもしれませんね。

1人で抱え込ませないで、先生方全体で、担任の先生だけに押しつけないでフォローしてあげるとするのはぜひやっていただきたいし、今の新任の先生のそういう面においてのレベルを全て上げていただきたいなと思います。

○教育長

おっしゃるとおりで、今、不登校、別室登校の話もありましたが、外国籍の子も多くなっています。全く日本語がしゃべれないけど親の都合で来て、学校に入らざるを得ないという状況が生まれていて、瑞浪市だけの問題ではなく、全国的な問題でもあると思いますが、そういう外国籍の子が就学する前に何とかある程度の日本語や生活様式を学べるような場所があると、東濃全部の学校が大変ありがたいと思います。

○市長

先進事例はありますか。

○教育長

可児市、大垣市にはありますし、土岐市でも外国籍の子をそこで生活させて、ある程度育ったら学校に行くような取組を今年からしています。

○市長

それはある意味では先ほどの送迎の話になってしまいますが、自治体ごとにとするのは難しいと思うので、例えば、そういう共同運用ができると非常にいいなと思います。

○教育長

どこもまだちょっとそこまでは手が伸ばせない状態です。

○市長

可児市は外国の方が5,000人ぐらいみえると思います。そうすると子どもも当然多



いですよね。美濃加茂にはありませんか。

○教育長

美濃加茂にもあります。

○水野補佐

少し前にそういった外国籍の方が増えていった状況が、土岐市で5年前ぐらいがそうで、瑞浪から恵那、中津川は、本当に今ちょうど増えています。

○教育長

本当にその子も大変ですけども、学校も大変で、そのワンクッションが必要だなと思います。

○市長

1回そういうことは市長会などで、相談をしていかないといけないかもしれませんね。それよりももっと文科省、国が考えるべきものもありますね。

○柴田委員

中学校の教育長訪問に行って、不登校の子のお話を聞いて、中学3年生のあたりで不登校になってしまうと、ずっと家にいるのかなと思いますが、そのあと、学年が上がって卒業した後その子たちが、どんな生活をしていくのかなといつも心に残ります。家の近所にも、中学校のときに不登校だった子たちが何名かいますが、その子たちは今どうしているのかなと近所の人と話しても、ずっと家にいるのかなとか働きには行ってないよねという会話をしますが、先ほど言われたような企業の方と連携して、社会に入れるきっかけを考えてあげるのも必要かなと思いました。

○市長

先ほど、可児委員が言われたようなそういう企業側との連携が大事かもしれませんね。その子の興味を引くものが何かあれば、また変わるかもしれませんね。多分、いいものはそれぞれ持っているはずだから、どこにその興味を持つかによってその子も違って来るんですかね。

今言われたようなことは、教育委員会でまとめていただいて、先ほどの外国籍の子ども達を受入れられるような日本語センターのようなものは、つくれないのかとか要望事項に上げてもらってもいいかもしれません。市長会で議論していくのも大事かもしれませんね。

⑤瑞浪市のいじめの現状について…資料No. 7

○水野学校教育課課長補佐

報告事項⑤について、資料により説明

○市長

いじめのことについて、今説明を頂きましたが、ひどいいじめはありませんか。

○教育長

ひどいいじめの事例は上がってないです。

暴力的ないじめとか、陰湿な1人を複数人でとかそういうのはないです。

○羽柴委員

保護者や家族が、学校に相談してくれるというのは、とてもいいことなので、すばらしいなと思います。

「解決に向けての取組中」については、握手して、ごめんなさいって言ったらそれで解決というレベルの先生は、瑞浪市にはいません。

私は、大事にしたいのは、解決に向けての取組も非常にこの先生の実感で違いがあるので、いじめ事案があったときに、そこに関わった子どもたちの名前と顔をその学校の先生は全部言えることが1番大事なことで、加害者も被害者も分かっているならば、どの先生に聞いても、こういう事があったと言えれば、どこでそのあと何か変なことがあってもすぐに気づくから、それが1番大事なことかなと思いました。

「パソコンや携帯で誹謗中傷される」というのは、もっとあるかなと思いました。3名で、この少ないときにこそ、学校みんなは、パソコン使っているけど、こういう使い方をしないのはすごいことだよと言って、褒めておくことがとても大事なことで、増えてからは仕方ないので、こういう事例がないときにこそ、徹底的にその良さを認めて、すばらしいモラルがあるよ、使い方大事だよ、という言い方が大事かなと思います。

○鈴木委員

視野を広くする、目を多くするということから、先生の中でも、年齢や経験数で上下関係があると思いますが、その先生の中でも、若い先生が上の先生に意見をしやすい、話しやすい環境をつくっていくこともとても大きいことだと思います。本当に些細なことを、若い先生が、こんなこと言ったらあれかなと思って、言わずに済んでしまうと、些細なことがもしかしたらとても大きいことにつながったかもしれないことがあると思うので、やはり、話しやすい環境づくり、今、各学校で、先生方が、そういうところにも力を入れていらっしゃるのも知っていますが、そういうものも広めていって、風通しの良い職場、意見交換が会議を設けなくてもいいぐらいしやすい職場の雰囲気づくりに力を入れてもらえると、早期発見できて、大きなことにつながらないのではないかなと思いました。

○市長

先生や親への訴えを、的確に受け止めてあげられるかどうか、サインを見逃さないことは大事ですね。特に先生であれば、しっかり受け止めていただきたいですね。

これもずっと永遠のテーマですが、先ほど言いましたように、いじめの質が少し変わってきた、暴力的でなくなってきたのは少し救いかなと思いますが、やはり、暴力でなくても、心の傷というのは大きく長く続きますので、しっかり対応していかなければならないかなと思います。

今日だけではなく、常に私も思いますし、気にとめていきたいと思っていますし、気づいたことがあったらまた教育委員会に情報提供をさせていただきたいと思いますので、みんなで情報提供、情報共有して、全てにおいて見逃さないように心がけていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

#### 4 その他

##### ○羽柴委員

「〇〇のまち みずなみ」とよく使いますよね。私は焼き物、化石、ゴルフ、バサラ、希望的観測で子育てに優しいまちみずなみと、私は5つを見つけましたが、これもある程度共通理解しておく、この複合施設でも、それを宣伝するような、例えば、図書館にコーナーを設けるだけでも違うし、色々イメージがある程度アップするといいかなと思いました。他にありますか。

##### ○市長

今は、特にスナッグゴルフで脚光を浴びさせてもらっているのも、ゴルフのまちです。ポーノポークのまち、化石のまち、歴史のまちでもあります。色々ありますが、是非色々なところで瑞浪市のところを掘り起こして発信していくことは、1番大事かなと思いますので、よろしくお願いします。

15時05分 終了